

サマー子ども教室の試行実施について（報告）

1 事業目的

平成27年4月から導入された「子ども・子育て支援新制度」では、小学校高学年を含めた全ての子どもたちに対し、子育て支援の充実を図ることとしている。

西東京市では、定員を超過した学童クラブが多いことから、夏休み期間中の『子どもの居場所』として、さらに小学校1年生から6年生までの全ての子どもが安全・安心に過ごせる居場所を確保するため、『サマー子ども教室』を試行実施した。

2 事業概要

★利用期間	平成28年7月21日(木)～8月31日(水)
★利用日	月曜日～金曜日【祝日は除く】
★利用時間	午前8時から午後5時まで
★利用場所	中原小学校2階 算数少人数教室
★定員	30名（応募36名）
★費用	無料（育成料は徴収）
★職員	再任用職員、臨時職員、大学生ボランティア
	※学童クラブの併用可（ひばりが丘第一学童・ひばりが丘第二学童）
	※体験活動メニューを多く取り入れ、仲間と相談してプログラムを決めたり、自主的に取り組みたい事業に挑戦した。

3 期待した効果及び実施結果

《期待した効果》

- ・夏季休業中、定員を超過したひばりが丘第一・第二学童クラブの児童を分散
- ・学校で実施するため、安全・安心な夏の居場所として保護者から信頼が得られ、高学年の受入れも可能となる。
- ・夏の居場所を確保すれば学童クラブを退会する児童（4年生等）がいるのではないかと

《実施結果》

- ・応募36名、平均出席人数 17人/日、最大出席人数28人/日（学童と併用者なし）
- ・ひばりが丘第一、第二学童クラブ児童を優先して募集したところ定員を満たしてしまったので、学童クラブを利用しない児童の募集をすることができなかった。
- ・各家庭とも学童クラブを退会するまでは至らなかった

《アンケート意見》

- ・保護者、児童から継続を望む声が多い
- ・学童との併用を希望する保護者が多い（夏休み後も学童を利用したい）
- ・応募人員が増えると学童が分散しなくなる

《職員意見》

- ・夏季休業中の緊急一時的な居場所（分散）
- ・低学年は学童クラブ、高学年は放課後子供教室・児童館ランチタイム

4 今後の事業実施について

学童クラブの定員超過を一時的に分散させることは可能であったことから、31年度（仮称）第10中学校内に学童クラブを確保することを目標としつつ、29年度については、児童センター内への学童クラブスペースの確保や本事業の継続について調整していきたい。

児童館ランチタイムの試行実施について（報告）

1 事業目的

平成 27 年 4 月から導入された「子ども・子育て支援新制度」では、小学校高学年を含めた全ての子どもたちに対し、子育て支援の充実を図ることとしている。

西東京市では、夏の昼食が「孤食」になりがちな児童が増加していることから、「いっしょに食べる」「楽しく食べる」「食事のリズムがもてる」といった子どもたちへ豊かな食の環境の提供と夏休みの居場所を目的として、『児童館ランチタイム』を試行実施した。

2 事業概要

★利用期間	平成 28 年 7 月 21 日(木)～8 月 31 日(水)
★利用日時	火曜日～金曜日【祝日は除く】
★利用時間	正午～午後 1 時まで
★利用場所	西原北児童館、ひばりが丘北児童センター
★持ち物	弁当・水筒・手拭タオル

3 期待した効果及び実施結果

《期待した効果》

- ・夏休みの居場所づくり
- ・孤食の防止

《実施結果》

- ・ひばりが丘北児童センター 延べ 22 人 最大 4 人
- ・西原北児童館 延べ 43 人 最大 7 人

《アンケート意見》

- ・利用の主な理由 自宅に誰もいないから、友人と一緒に利用できるから
- ・良い試みだと思う
- ・利用者数が少なかった（友達と一緒に行けばよかった、学童クラブの児童と一緒に食べても良かったのではないかな）

《職員意見》

- ・夏の居場所としては良い（学童クラブを利用しない児童、高学年の児童）
- ・利用者数が少ない（PR 不足）
- ・利用申請にあたり持込の注意やアレルギー対応の説明を行ったが、もう少し簡易な方法を検討する必要があるのではないかな
- ・支援の必要な児童も見られた

4 今後の事業実施について

今年度の利用実績は少なかったが、夏季休業中は児童館で昼食をとることができることを PR し、夏の居場所の重要な役割の一端を担う事業と調整したい。

また、支援の必要な児童も見られたことから、地域の資源やボランティアスタッフとともにランチクッキングなど発展的な企画も検討したい。